



学思

JSPS Beijing

80

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」——『論語・為政篇』

2024 年 10 月～12 月

目次

● センター長のコラム.....	2
● 活動報告.....	3
・ JSPS 中国同窓会 2024 年度総会	
・ JSPS 中国同窓会新会長劉山虎教授挨拶	
・ JSPS 中国同窓会第七期役員名簿	
・ JSPS 中国同窓会重慶支部会	
・ JSPS 中国同窓会陝西支部会	
・ 恩施土家族苗族自治州農業科学院にて JSPS 事業説明会	
・ 中山大学にて JSPS 事業説明会	
・ 2024 年度第 1 回在中国日本人研究者ネットワークさろん	
・ 山口センター長が西湖大学を訪問	
● 編集後記.....	8
● 活動記録 (2024 年 10 月～12 月).....	8



学振と科研費

日本学術振興会（学振）は、1932年に天皇陛下の御下賜金をもとに財団法人として設立されました。これにより日本においてはじめて本格的な研究費補助事業が開始されることとなります。個人研究の助成と総合研究の実施の二つを主たる事業としていましたが、個人研究の対象は、研究者個人の自由な発想による研究が主で、「国策」と密接に関係した研究は少なかったといわれています。総合研究については、専門分野ごとに委員会を組織して重要課題を推進していく体制を整えたことが高く評価されており、やがて学振の中核的事業となっていきます。それは、1937年に策定された事業方針で「小問題の解決より国家的重要問題に力を集中」するとされたことが示しているように、戦時色が強まる中で産業的、軍事的要請に基づいた実用的な工学分野の研究に重点が移っていくことでもありました。

ところで、文部省は、1918年に創設した「科学奨励金」とは別に1939年には「科学研究費（科研費）」を新設しています。学振の研究費が応用研究を重視し特定の産業や軍事技術への寄与に傾いていったのに対し、この科研費はより広範な基礎科学を対象としておりました。科研費の予算は学振の研究費より2～6倍程度の規模があり、これは当時の文部省の政策の重点が応用研究から基礎研究へとシフトしたことを示しているものと見られております。その後、学振の研究費と科研費は相互補完的なものとして存続していくこととなります。1943年の閣議決定により戦争の遂行を科学研究の唯一絶対の目標とする方針が打ち出された後も、この傾向は変わりませんでした。科学の戦力化が政策として執られるようになって、科研費については自然科学分野の配分にはほとんど変化がなく、各分野に万遍なく研究費を配分する体制が継続していました。それは、科研費の配分決定が各研究分野の代表者からなる学術研究会議に委ねられていたことにもその一因があったと考えられています。

1945年に敗戦を迎えて戦時体制は解体され、それに伴い学振への文部省からの補助も打ち切られることとなります。こうして学振が研究費配分機関としての機能をほぼ失っていったのに対し、科研費は文部省による主要な研究費助成として戦後も継続して行きました。そして、それから約半世紀後の1999年に科研費の関連業務の一部が学振へ移管されることになり、学振は再び研究費配分機能を取り戻すこととなりました。このような歴史を振り返ってみると、矛盾しているような表現になりますが、科研費が学振に移管されたことにより、学振はより学振らしくなったといえるのではないかと思います。次第です。

（参考文献）

- ・日本学術振興会『日本学術振興会 20 年史』1987 年
- ・日本学術振興会『日本学術振興会 30 年史』1991 年
- ・水沢光「日本学術振興会研究費と科学研究費交付金の分野別割合にみる戦時と戦後の連続性」（『科学史研究』53 巻 272 号 2015 年）

JSPS中国同窓会2024年度総会

2024年11月2日（土）及び3日（日）、湖北省恩施市において、JSPS中国同窓会の2024年度総会が開催されました。協力機関は、恩施土家族苗族自治州農業科学院であり、オーガナイザーは、JSPS中国同窓会会員である中国農業科学院油料作物研究所の陳洪研究員でした。全体で60名を超える同窓会会員及び同行者の出席がありました。



同窓会総会の様子

開会式では、同窓会長、華東師範大学楊彪教授及び当センターの山口英幸センター長より挨拶がありました。また、楊同窓会長から、理事会における新役員（第7期）審議結果及び2023-2024年度の活動実績について、同窓会会員への報告がなされました。

同窓会長からの報告の後に行われた役員交代式では、楊同窓会長から新役員への任命状が授与され、新役員から挨拶がありました。

【新役員出席者】

- 劉山虎 会長（河南大学化学・分子科学学院）
- 王清遠 副会長兼支部長（四川大学建築・環境学院）
- 錢 昆 北京支部長（北京理工大学医学技術学院）
- 王国棟 陝西支部長（陝西師範大学生命科学学院）
- 範作冰 浙江支部長（杭州電子科技大学情報工程学院）
- 陳 洪 湖北支部長（中国農業科学院油料作物研究所）
- 蔣崇文 湖南支部長（中南大学化学化工学院）
- 吳寿栄 重慶支部長（重慶大学生物工程学院）

セミナーのセッションでは、5名の同窓会会員が自身の研究に関する発表を行いました。

【「学者講壇」講演者】

- 王如彬教授（華東理工大学数学学院）
- 婁開陽教授（中央民族大学国際教育学院）
- 錢昆教授（北京理工大学医学技術学院）

李琪教授（中国海洋大学水産学院）

劉雲国教授（臨沂大学生命科学学院）

午後には、恩施土家族苗族自治州農業科学院の向極鈺副院長による講義の他、速成育種センターの見学が行われました。栽培されている茶、ジャガイモ、コンニャク、レタス等を見ながら研究員から説明を受けました。特に、恩施は中国の銘茶である恩施玉露とともに、鉱物資源セレンの産地として知られており、セレンが豊富な恩施硒茶が健康に非常に良い効果があると言われています。晚餐では、セレンが多く含まれている恩施の食事を堪能して健康を期しつつ親睦を深めました。また、土家族の風習である「摔碗酒」（お椀に注がれたお酒を一気に飲み干し、そのお椀は足元で叩き割る）をして縁起担ぎをしました。



速成育種センター見学の様子



「摔碗酒」をして縁起担ぎ

翌3日（日）は恩施土司城を訪れ、原利川市文物事業管理局局長の方国剣研究員による説明を受けながら、中国少数民族である土家族の民族文化・風習を学びました。その後、恩施土家族苗族自治州博物館にも足を延ばし、更に中国の歴史について理解を深めました。

2024年度同窓会総会は、陳洪研究員をはじめとする同窓会会員及び農業科学院の皆様にご多大なるご尽力をいただき、盛況のうちに終わりました。



集合写真

JSPS中国同窓会 会長挨拶

このたび、皆様からのご信任をいただき、JSPS 中国同窓会の会長をお引き受けすることになりました。皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。このような優秀なメンバーが集う場である同窓会の会長という重責を担うことは、大変光栄であるとともに、身の引き締まる思いであります。理事会と会員の皆様のご期待に応えるべく、同窓会の業務に邁進してまいります。

JSPS、日本学術振興会は、日本における重要な研究助成機関として、研究者の革新と日中交流の促進に大きな役割を果たしてきました。JSPS 中国同窓

会は 2010 年に設立され、中国の高等教育機関や企業等で活躍する JSPS 事業による支援を受けた研究者間の友好をさらに深めるために、交流や提携の場を提供しています。設立から 14 年間、歴代会長のリーダーシップの下、JSPS 中国同窓会は影響力を着実に拡大し、日中間の技術・文化交流の促進に積極的な役割を果たしてきました。この場をお借りして、歴代の会長および理事の皆様にご心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

「道は険しく長くとも、挑戦の歩みを止めず」との言葉のとおり、新たな

JSPS 中国同窓会理事会は、JSPS 北京研究連絡センターの支援の下、使命に背くことなく会員の皆様と共に JSPS 中国同窓会の活動を着実に推進し持続的な発展のために確固たる決意をもって前進してまいります。学術シンポジウムや BRIDGE Fellowship Program などを通じて、引き続き JSPS 中国同窓会の結束力を高めながら、影響力の拡大に努めるとともに、日中両国の技術・文化協力と友好交流への新たな、そして更なる貢献に行っていく所存です。

河南大学 劉山虎

劉山虎略会長略歴



河南大学化学・分子科学学院教授、博士課程指導教官。主な研究分野：超浸漬界面の組立と応用、光熱界面エネルギー変換、電気触媒エネルギー材料。研究代表者として中国国家自然科学基金、科研費奨励費、中国石油天然ガス集团公司委託事業、河南省科学技術難関事業、河南省教員教育カリキュラム改革研究事業等を実施。共同研究者として日中重点国際（地域）共同研究事業、科研費基盤研究事業に参加。河南省科技进步三等賞、河南省教育厅科技成果二等賞、河南大学師徳賞、河南大学教育優秀賞、河南大学研究優秀賞を受賞。発表論文数は 80 余（ESI 高被引用論文 4）、被引用回数 7700、H-index 52。

JSPS中国同窓会第七期役員名簿

（任期：2024年11月～2026年11月）

■ 会長

劉山虎（河南大学化学・分子科学学院）

■ 副会長

王清遠（四川大学建築・環境学院）

周 璐（南京航空航天大学コンピューター科学・技術学院）

■ 支部長

吉林：馬 強（吉林大学化工学院）

陝西：王国棟（陝西師範大学生命科学学院）

江蘇：周 璐（南京航空航天大学コンピューター科学・技術学院）

湖北：陳 洪（中国農業科学院油料作物研究所）

広東：李昕明（華南師範大学情報光電子科技学院）

四川：王清遠（四川大学建築・環境学院）

北京：錢 昆（北京理工大学医学技術学院）

上海：楊 彪（華東師範大学歴史学部）

浙江：範作冰（杭州電子科技大学情報工程学院）

湖南：蔣崇文（中南大学化学化工学院）

重慶：吳壽榮（重慶大学生物工程学院）

JSPS中国同窓会重慶支部会

2024年10月14日(月)重慶市においてJSPS中国同窓会重慶支部会シンポジウム「日中プレジジョン・メディシン 学術シンポジウム及びJSPS事業説明会」を開催しました。

JSPS中国同窓会シンポジウムは、例年、JSPS中国同窓会会員からの申請を受けて開催しているイベントであり、今回は重慶大学生物工程学院の呉壽栄教授がコーディネーターを務め、「腫瘍など重大疾患の分子メカニズムとプレジジョン・メディシン」をテーマに開催しました。呉壽栄教授はJSPS中国同窓会の副会長兼



会場の様子

重慶支部長を務めたご経験があり(2014年~2016年)、積極的に同窓会活動を推進してくださっています。

シンポジウムの開会にあたり、重慶大学生物工程学院の張吉喜副院長にご挨拶いただいた後、JSPS北京研究連絡センターの今城佳奈子副センター長が登壇し開会の挨拶を行いました。続いて、張宏院長(浙江大学生物医学工程・機器科学学院)、服部素之教授(復旦大学生命科学学院)、新鞍陽平教授(南京大学医学院)、江啓慧教授(重慶大学生物工程学院)による基調講演を行いました。また、杉浦南美国際協力員よりJSPSの概要と実施している主要な国際交流事業について紹介がありました。

会場となった重慶大学の会議室には、多くの研究者や学生・留学生が集い、活



集合写真

発な意見交換が行われました。なお、シンポジウムに先立ち重慶大学構内及び研究室を見学し、学内施設・設備や研究室の運営について話を伺い意見交換を行いました。

JSPS北京研究連絡センターは、中国の研究者の方々がJSPSの各種国際事業採用期間が終了した後も引き続き日本との学術・研究交流を継続していくことができるよう、JSPS中国同窓会シンポジウムを含む各種同窓会行事への支援を充実させていきたいと考えています。

JSPS中国同窓会陝西支部会

2024年12月20日(金)陝西省西安市の西安交通大学において、JSPS中国同窓会陝西支部シンポジウム「ゼロカーボン建造物とゼロカーボンシティ」及びJSPS事業説明会を開催しました。

JSPS中国同窓会シンポジウムは、例年、JSPS中国同窓会会員からの申請を受けて開催しているイベントであり、今回は、西安交通大学の顧兆林教授がコーディネーターを務めました。会場となった西安交通大学の会議室には、研究者や学生・留学生約40名が集いました。

シンポジウムの冒頭では、顧兆林教授による挨拶の後、JSPS北京研究連絡センターの今城佳奈子副センター長が登壇し開会の挨拶を行い、続いて杉浦南美国際協力員がJSPSの実施している主要な国際交流事業について説明を行いました。事業説明と関連し、JSPS中国同窓会陝西支部長である陝西師範大学の王国棟教授

によるJSPS国際交流事業を通じた自身の日本における経験についての紹介がありました。

その後、各研究者による講演が行われ、講演後には活発な質疑応答・意見交換が行われました。

シンポジウムの開催に先立ち、西安交通大学の顧兆林教授と王宇鵬教授による人居环境・建築工程学院7号館の見学が行われました。当該建物は、低炭素実験建築として西安交通大学の教員と学生のチームによって設計され、太陽エネルギー、地熱エネルギー、風力エネルギーなどの自然エネルギーの転換システムが各所に施されており、低炭素建築科学技術の研究開発と実践的な教育を行っています。

JSPS北京研究連絡センターは、JSPS中国同窓会シンポジウムを含む各種同窓会イベント活動を通して、多くの中国の

研究者に日本との学術・研究交流を選択してもらえるよう、引き続き支援を充実させてまいります。



校舎見学の様子



集合写真

恩施土家族苗族自治州農業科学院にてJSPS事業説明会

2024年11月1日（金）、湖北省恩施市の恩施土家族苗族自治州農業科学院において、JSPSが実施する国際交流事業の説明会を実施しました。



事業説明会の様子

本説明会は、2024年度同窓会総会開催に先立ち、共催機関である恩施土家族苗族自治州農業科学院において開催したものです。若手研究者を中心に約21名の参加がありました。冒頭に恩施土家族苗族自治州農業科学院の牟来学党書記から歓迎の挨拶があり、続いて当センター・

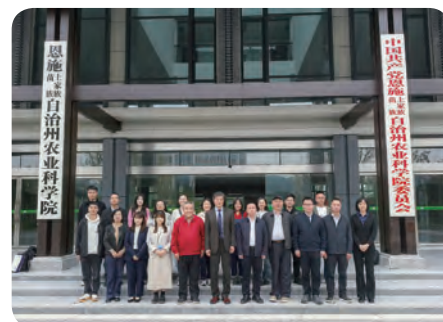
山口センター長から挨拶を述べ、同窓会総会の開催までのご尽力に謝意を表しました。

国際交流事業を紹介するセッションでは、当センター・今城佳奈子副センター長が、中国との交流状況を織り交ぜながら各種プログラムについて説明を行いました。JSPSという組織を初めて知る参加者も多く、関心を持って聞いていました。その後、実際に外国人研究者招へい事業で渡日し、日本で研究した経験のある、JSPS中国同窓会会員の陳洪研究員（中国農業科学院油料作物研究所）と郭利民教授（華南科技大学環境科学・工程学院）、鄭国東教授（中国地質大学（武漢）環境学院）から、訪日時の研究活動の様子を当時の写真とともに振り返り、JSPS事業の経験を踏まえたこれまでの研究者としての歩みを話しました。

最後に、牟学書記から、JSPS事業等を

通じて若手研究者には是非海外に出て経験を積んでほしいとお言葉がありました。当センターとしても本説明会をきっかけにJSPS事業を積極的に利用することで、日中学術交流が益々盛んになることを期待しています。

説明会前には、建設されたばかりの農業科学院の施設見学が行われました。実はこの施設は上から見ると、恩施で多く産出されている鉱物資源セレンの元素記号「Se」の形をしています。



集合写真

中山大学にてJSPS事業説明会

2024年12月28日（土）、中山大学珠海キャンパスにてJSPSが実施する国際交流事業の説明会が開催されました。本説明会は、JSPS中国同窓会の会員で同大学海洋工程・技術学院の陳順華副教授が企画したもので、陳副教授の研究室の学生ら十数名が参加しました。北京センターから山口センター長が参加したほ



会場の様子

か、学会に参加するため日本から来訪していた李明昕博士も講師として招かれました。李明昕博士は、現役のJSPS外国人特別研究員で、2024年9月から東京大学で研究に従事しています。

陳副教授の進行により事業説明会が開始され、最初に山口センター長により外国人特別研究員などのJSPSの各種プログラムについて説明が行われました。続いて、李明昕博士から、これまでの研究の経歴や外国人特別研究員へ申請した際の経験談などが紹介されました。その後、陳順華副教授により自身の研究歴や日本人研究者との共同研究の経緯について説明があり、JSPS特別研究員に採用され日本で研究経験を積むことができたことへの感謝の言葉で締めくくられました。参加した学生たちは外国でキャリアを積む



集合写真

ことに強い関心を持っており、いずれのプレゼンテーションにも熱心に耳を傾けていました。

陳副教授は、学生たちが外国での新たな環境のもとで研究経験を積むことを奨励しており、今回の説明会が学生たちの奮起を促すものとなることが期待されています。

2024年度第1回在中国日本人研究者ネットワークさろん

2024年12月9日（月）、中国国内の大学その他の公的研究機関で研究に従事している日本人研究者を中心とした「在中国日本人研究者ネットワーク」の会合である「在中国日本人研究者ネットワークさろん」を北京理工大学中関村校区国防科技园にて開催しました。コロナ禍の影響で未開催が続いており、約5年ぶりの開催でした（2023年度は韓国 NRF と合同で研究者の集いを開催）。

今回は2015～2021年度まで JSPS 北京研究連絡センターのセンター長を務められた廣田薫教授（北京理工大学自動化学院 控制理論・控制工程研究

所）の多大なご協力をいただき、中国で活躍する研究者をはじめ、科学技術関係の仕事に従事している方を含め、15名が参加しました。

さろんでは、廣田教授から「北京理工大学で行う情報科学研究一日中の比較も交えて」をテーマに自身の経歴や研究経験等をお話いただいた後に、参加者からの自己紹介、近況報告が行われました。その後のフリーディスカッションでは発表を受けて、中国における研究活動等について参加者間で盛んに意見交換が行われました。

廣田教授には、多大なるご尽力をいただき誠にありがとうございました。



さろんの様子



集合写真

山口センター長が西湖大学を訪問

2024年10月28日（月）、山口センター長が、元 JSPS フェローと交流するため西湖大学を訪問しました。この訪問は、同大学材料科学教授、理事、未来産業研究センター副センター長の黄嘉興博士の招待により実現したもので、黄博士は、アメリカのノースウェスタン大学材料系で14年に渡り教鞭

を執ったほか JSPS フェローとして日本に招待されるなど、国際的に活躍している研究者です。

センター長は、黄博士から西湖大学の概要について説明を受けた後、4名の研究者とそれぞれ20分ほど懇談し、日本との交流などについて意見交換をしました。いずれの研究者も JSPS の

事業を経験するなど日本での研究経験を有しており、西湖大学において先端的な研究に従事しています。

西湖大学は、民間が出資し政府が重点的に支援する新しいタイプの私立大学として2018年に設立されました。研究大学として今後の発展が期待されています。



（応対者）

- | | |
|-----|---|
| 黄嘉興 | 材料科学教授、理事、未来産業研究中心常務副センター長、Accounts of Materials Research 編集長 |
| 楊 肖 | 工学院、未来産業研究中心未来材料所 PI |
| 張驪驛 | 理学院、未来産業研究中心分子功能所 PI |
| 王建輝 | 工学院、未来産業研究中心分子功能所 PI |
| 俞曉春 | 生命科学学院、未来産業研究中心生命原理所 PI |

編集後記

秋は中国同窓会のイベントが目白押しでした。重慶と西安という日本との関わりが深い地域で支部会を行い、重慶の地下鉄駅の案内板は東京のJRにそっくりで親近感がありましたし、西安は日本の人気漫画の登場人物である始皇帝が統一した秦の都であり兵馬俑が有名です。真言宗・空海が留学していたのも西安です。特に重慶大学でのシンポジウムは私の出張デビュー戦でとても緊張していたので、元同窓会副会長の呉先生がコーディネーターを務めてくださり非常に心強かったです。

同窓会総会では第7期理事会がスタートしました。気持ち新たに同窓会活動が益々実りのあるものとなるよう取り組んでいきますので、皆さま引き続きご協力をよろしくお願いします。

また、11月にはコロナ以来約5年ぶりに日本人に対する短期滞在のビザ免除措置が再開されました。これから更に日本人研究者が訪中し学術的人的交流の再開に繋がれば嬉しいですね。

学思80号を制作している2025年は、「春節」がユネ

スコの無形文化遺産に登録されてから初めて迎えた年です。北京市内も春節を祝う赤い提灯が街中に飾られて、おめでたい雰囲気になっていま



地壇公園の廟会

す。北京センターも少しばかり春節の飾り付けをして新年をお祝いしました。日本政府観光局(JNTO)の発表によると、1月の訪日外国人客数は前年比40.6%増の378万1200人で、そのうち中国は98万300人で国別1位だったそうです。春節による社会全体の地域をまたぐ移動者数が延べ23億人を超えたといったニュースも見聞きし、日本と違って桁外れの規模を感じました。

祝您工作顺利，巳巳如意！

副センター長 今城佳奈子

活動記録

(2024年10月～12月)

10月

- 9日 希平会員との懇談会
- 14日 JSPS 中国同窓会重慶支部会開催
- 15日 中関村知庫連盟理事会出席
- 23日 中国教育国際交流協会訪問
- 24日 中国日本商会会合出席
- 25日 JSPS 学術システム研究センター福田相談役来訪
- 27日 JSPS 中国同窓会会員記念講演会出席
- 28日 西湖大学訪問
- 29日～11月1日 GRC 地域会合参加
- 29日 在中国日本大使館経済部長表敬訪問

11月

- 1日 恩施土家族苗族自治州農業科学院におけるJSPS事業説明会開催
- 2～3日 JSPS 中国同窓会総会開催
- 7日 在中国九州大学同窓会訪問
- 8日 廣田前センター長来訪
- 14日 中国社会科学院訪問
- 16日 北京林業大学主催日中交流会出席
- 20日 在中国日本国大使館主催秋の交流会出席
- 20日 東京工業大学・清華大学日中関係者懇親会出席
- 20日 東京工業大学・清華大学合同大学院プログラム20周年記念行事出席
- 28日 広報文化十一者会出席
- 29日 JSPS 中国同窓会会員来訪

12月

- 7日 留日学人活動站年会出席
- 9日 在中国日本人研究者ネットワークさろん開催
- 13日 第27回訪日団帰国報告会出席
- 17日 国際生物学賞授賞式出席
- 18日 成瀬元副センター長来訪
- 19日 海外センター長会議出席
- 20日 JSPS 中国同窓会陝西支部会開催
- 22日 第19回首都師範大学日本文化研究センター日本語スピーチコンテスト出席
- 26日 中国日本商会会合出席
- 28日 中山大学におけるJSPS事業説明会開催